

O.S.P



VOL.21
December

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

O.S.P
動画

随時更新!!

緊急
特別企画

JB TOP50
初参戦にして
年間5位を奪取!!

小林明人の躍進。

～遅れてきたルーキーが振り返る、
2017シーズン～



折金一樹が釣れる秘密を
暴露します!

オリキン ハイスクール

第3講: オーバーライド

O.S.Pプロスタッフがシーズナルパターンをもとに
おすすめのルアーをご紹介します!

Pro Staff's RECOMMEND

旧吉野川 / 浦川正則



O.S.Pプロスタッフが
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

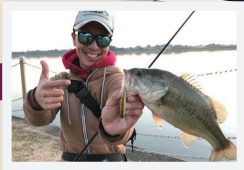
～12月の霞ヶ浦水系オススメスポット～



マシュー



中林正臣



大塚高志



北田朋也

並木敏成 & O.S.Pの
最新情報はこちら。

並木敏成 ↓



O.S.P ↓



Journal

折金高 Orikin High School

オリキンハイスクール

O.S.Pプロスタッフの折金一樹が、独自の視点でルアーの特徴や使い方を解説するオリキンハイスクール。まずはそのルアーの特徴を知り、それからどこで、どういったときに、どんな使い方をすればバスが釣れるのかをオリキンから学びます。

第三講は寒さが増すこれからのシーズンに欠かせない、いや、オールシーズン出しどころがあるメタルパイプ、オーバーライドについて学びましょう!!

1 限目 オーバーライドを知る。

バスのポジションが深くなる冬こそ
リフト&スライドフォールで食わせる!!

寒くなって水温が下がりはじめると、バスはもちろんベイトフィッシュも深いところに落ちていきます。そんなときに使いたいのがオーバーライドです。寒いと動きが鈍くなるのはバスも人間も同じ。エサとなる小魚を追ってまで食おうとは、なかなかしない。クランクベイトやシャッド、スピナーベイトの横の動きを追わない、あるいはソフトベイトによる食わせの釣りにも反応しない。そんなときこそ、オーバーライドの出番です。バスの目の前に落とすイメージで、しかもスピード感があるルアーなので、思わず口にしてしまう。いわゆる「リアクション」の釣りです。かといってメタル系ならなんでもいいかというと、決してそうではありません。オーバーライドは他の同カテゴリーのルアーにはないメリットがいくつもあります。中でもその代表的なのがスライドフォール。一投で広い範囲を探れるので手返しよさにつながります。もちろん、スッとスライドする動きに反射で食ってしまうバスも少なくありません!!



2 限目 オーバーライドの使いどころと使い方。

リフト&スライドフォールで
動きが鈍いバスの居場所を徹底サーチ

亀山湖では、冷えはじめたら水深5mぐらいまで、冬が本格化するお正月以降は10m前後まで探ることがあります。またその日の中でも朝夕のマヅメどきや水温が上がったタイミングなど、バスのポジションはハイシーズンほどではありませんが変化することがあります。捕食のために浅いところに行くことや、ディープのフラットな地形もしくは岬状の地形でエサを食っていることもあります。あまりにも寒ければスタンブや立ち木、また崩落跡の深いところでもじっとしていることも。そんなとき、食わせのソフトベイトでは一投に時間を要してしまうので、非常に効率が悪くなります。しかしオーバーライドであればキャスト&リトリブで広い範囲を探ることができ、かつ「ここぞ」というピンスポットでは50~60cmぐらいの小刻みなリフト&スライドフォールでじっくり探ることも可能。スライドフォールはキャストでもパーチャルでも、一投で広く探ることができるのは本当に心強いメリットですね。



3 限目 ウェイトをどう使い分けるのか。

大・中・小の3カテゴリーに分ける
メインは使い勝手のいい1/4オンス

オーバーライドには1/8オンスから1/2オンスまで全5サイズがラインナップされています。ボクはこれを大きく3サイズに分けています。まず、1/2オンスと3/8オンス。こちらはシルエットが大きく、リフト時の「プルプル」も大きくなるので、存在感を出したいときに使っています。これが「大」サイズです。次に「小」サイズ。これは3/16オンスと1/8オンスが入ります。水がクリアなとき、強い振動やフラッシングをバスが嫌うことがあるんですね。バスが浮き気味で中層を巻いて使うときも、この「小」サイズを選びます。そして最も出番が多いのが真ん中に位置する「中」サイズの1/4オンス。水深5~8mでオーバーライドを使うことが多いのですが、振動やフォールスピードがちょうど合っていると感じています。もちろん亀山湖だけでなく、マディンシャローや野池でも使いやすいですよ。



4 限目 オリキンのカラーセレクトのキホン。

全22色のラインナップを3分割
ゴールド、シルバー、マット&ベタ塗り系

全22色を揃えるオーバーライドですが、こちらも大きく3カテゴリーに分類しています。まずはゴールド系。濁ったときや朝夕のローライト時に使っています。次にシルバー系。実は最も多用する系統のカラーで、水がクリアでベイトを食っているときはもちろん、リアクション的要素も期待できます。シルバー系の中でも水が青っぽければブルー系シルバー。緑がかったりればグリーン系シルバーを使うといいと思います。あとはベイトフィッシュに合わせたシルバー系を選ぶのもありますね。最後はマット&ベタ塗り系。あまりにも濁りがきつくてゴールド系が効かないときにいい。ピンクや赤などはベイトに合わせて使うのもいいですね。



①濁っているときやローライトではゴールド系(黒金オレンジベリなど)。②シルバー系(シルバーミラーシャッドなどはベイトを捕食していたり、水がクリアなときにセレクト)。③orkピンクワカサギのように、ベイトに合わせたカラーセレクトもあり。④⑤マットタイガーやパールピンクバックはゴールド系で反応がないほど濁ったときに出番

5 限目 この釣りの大敵! 根掛かりの対処法。

深くフックを刺さないことが重要
ルアーリトリバーは欠かせない!

クランクベイトのようにリップがあるわけではなく、ソフトベイトのようにハリ先を埋め込んでいるわけでもないので、どうしても根掛かりは起きてしまいます。まずはできるだけ早く、障害物に引っ掛かったことを察知して、フックを深く刺してしまわない意識を持つことが大事です。もしラインが障害物に乗っていると感したら、ロッドを立ててラインを浮かせるなどして、慎重にかわしましょう。それでも引っ掛かってしまったら、無理して引っ張らずに逆方向に回ってみたり、ゆすってルアーの重みで外してやること。それでもダメならルアーリトリバーの出番。この釣りに限らずひとつ持っている、ロストがなくなるだけでなく、ルアーをフィールドに残す心配もありません。

バスは障害物にいます。つまり早く根掛かりをかわせば、バスに出会える!!



特別講座 1 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

バイトと根掛かりの違い

「カツン!」ときたらだいたい根掛かり
生命感がある「ヌツ」という感触が...

リフト&フォール時のバイトの多くは、フォールさせてからのリフト時に生命感がある「ヌツ」とした感触が出るという。「カツン!」と何かに当たってロックされるような感触は根掛かりであることが多い。先述したようにそれ以上、フックを刺さない注意が必要だ。何らかの感触を得たときに、まずは聞いてみる。これで根掛かりか、バイトなのかを判断することができる。瞬時に判断できるようになるには、とにかく経験を積んで慣れるしかない、とオリキン。

特別講座 2 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

この動画を見ればカンペキ

オリキンがO.S.Pルアーの使い方を
オリキンらしさあふれる動画で解説

オリキンの新シリーズ動画「オリキンばんでみっく」。すでに公開されている「第1回 ラウダーで水面ゲーム編」をご覧になった方も少なくないのでは? 先日公開された第2回では、ここでご紹介しているオーバーライドを実釣シーンも交えて解説している。この紙面ではお伝えしきれなかった内容あり、オリキンの天敵との絡みもありで、見応え十分。本紙と合わせてご覧いただければ、より理解度もアップするだろう。ぜひ、ご覧ください!!

ミノーイングパターン用



阿修羅O.S.P925・ヴァルナ110・ルドラ130

川のチャンネルサイドにあるような消波ブロックやリップラップ、さらにそこから繋がるシャローフラットの入り口付近、橋脚などの縦のマンメイドストラクチャーで使います。基本的にこの時期、上記3種のルアーはSPEC2、もしくはサスペンドをチョイス。SPEC2は固定重心かつサイレントタイプで、泳ぎ出しが極めて速いため流れの中でも強く、ストップ&ゴーやタダ巻き、それにややクリアアップして首の存在も気になるシビアな状況で効果的。またサスペンドはしっかりと、ストップを入れて誘いたい場合に使用します。



マンメイドストラクチャーがあるチャンネルサイドを的確に!!

サーチ用



ドライブシャッド6インチ

低速のリトリブで最も威力を発揮するドライブシャッドは、低水温でも非常にポテンシャルが高く、釣れるサイズもデカイのが魅力。オフセットフックなので根掛かりを恐れず、ボトム付近や、ややこしいストラクチャーまわりを攻められるので非常に重宝します。水深に応じて、ネイルシンカーで調整してもらおうとさらに使いやすと思います。

起伏のあるボトム攻め用



ドライブクローラー・ドライブカーリー

サスペンドミノーやドライブシャッドといったルアーに浮いてこない、または攻められないような起伏のあるボトム付近で多用します。使用するリグについては、

ドライブクローラーはネコリグ、ジグヘッドワッキーがメイン。ドライブカーリーはネコリグ、および軽めのリーダーレスダウンショットが軸になります。どちらもスローに、丁寧に、起伏から離さないようにアクションを加えながら誘います。

シビアな状況下ではSPEC2がオススメ!!



浦川正則

徳島県
旧吉野川

Pro Staff's

O.S.Pプロスタッフがおすすめる、この時期に外せないルアー

RECOMMEND

そのフィールドに精通するO.S.Pプロスタッフが、シーズンパターンをもとに必携のルアーをご紹介します。

これさえ持っていけば、確実にバスは釣れる!!

定番エリアだけにとどまらない
水位変動によるビッグバスパターンも

12月の旧吉野川は水温の上下動を繰り返しながら、一桁前後まで落ちてくるタイミングです。水質もクリアアップしたり、流れや風でステイン気味になったりと、水中の変化がかなり起きます。ルアーや狙うエリアも限定的になり、いわゆる「冬の釣り」がスタート。近年の旧吉野川は全体的にシャロー化

が進み、ウィンドの減少によって、しっかりとしたマンメイドストラクチャーがあるチャンネルサイドを的確に釣ることが、厳寒期に釣果を上げるための近道。しかし毎日起きる水位変動が動ける体力がある魚を自動的に動かしてくれるので、定番エリアだけにとどまらないビッグフィッシュパターンも!!

Masamichi Akatsuka

モノ作りに携わることで見えたルアーの本質こそが原動力

O.S.Pで開発をさせてもらっている小林明人です。現在はソフトベイトのプロトタイプを制作するというのが主な仕事で、さまざまな試作品を作っては社内のプールでスイムテスト。そんな毎日を送っています。アイデアは並木さんからいただくこともあれば、ほかのプロスタッフの方からいただくこともしばしば。他に類を見ない機構を兼ね備えたソフトベイトを試作し、意図した思惑どおりのアクションを見せたときは、何物にも代え難い達成感がありますね。今年、O.S.PからリリースされたHPミノー3.1インチについては、開発段階で300を超えるプロトタイプを作成しました。しかし、決して数を打てば当たるというものではありません。さまざまな角度から「現代のバスフィッシングに求められるものは何か?」を追求し続けるO.S.Pのモノ作りだからこそ、これだけのプロト作成に至ったのです。そしてそんなO.S.Pの開発に携わることができているのは本当に光栄なことでもあります。



エコHPミノー3.1インチ

その経験が、今年から参戦しているJB TOP50プロシリーズの原動力になっていることは間違いありません。そして年間5位という結果でシーズンを終えることができたのは、ルアーの本質を考えて釣りをすることができたから。さらにO.S.Pには、そういった精神に基づいて生み出されたルアーがあるからにほかならない、と言い切ることができます。

産卵期にバスが敬遠するゴリ系のベイトをイメージ

では、ここから今シーズンを振り返っていききたいと思います。第1戦は福岡県の遠賀川で行われました。4月の開催ということもあり、キーになるのはもちろんスポーニング。そこでゴリ系のベイトフィッシュをイメージし、これを意識しているバスをメインターゲットに据えました。その理由は大きく2つ。ひとつはゴリ系のサカナはバスにとってメインベイトになっているだろう、という点。もうひとつはバスがスポーニングを控えているときに、これらゴリ系のサカナを敬遠する存在にあるということです。



エコHPシャッドテール2.5インチ(2.7gダウショット)

そこで自分がチョイスしたのは、HPシャッドテール2.5インチ(エコ)の、ショートリーダーのダウショットです。メインラインはPEの0.6号にリーダーはフロロの7ポンド。2.7gという重めのシンカーにリーダーは7cm程度。これを主軸に据えて3日間トータルで3,594g。初戦からいきなり決勝進出を果たすことができました。最終日にスコアを落としたことが、今となっては悔やまれます…

HPミノー3.1インチ、デビュー高速リトリブでシングル!

第2戦は広島県の弥栄湖。ここでいよいよ、HPミノー3.1インチ

(エコ)がデビュー。この試合ではi字引きからの高速リトリブが活躍してくれて、2戦目で今度はシングル入賞(8位)を果たすことができました。



HPミノー3.1インチ(ノーシンカー)

なぜ、高速リトリブだったのか。開催時期が6月でバスに限らず小魚の活性も高く、元気に泳いでいる姿が確認できました。これに気づくまではi字引きで寄せてバイトに持ち込むことができて、ショートバイトが多くミスも多かったのです。しかし、小魚が活発に泳いでいる姿にヒントを得て、i字引きからの高速リトリブにスイッチすることで、バスの本気バイトが得られるようになり、ミスも格段に減ったのです。

このとき、高速リトリブでも安定して泳ぎ、V字テールが細かく振動するマスバリちよん掛けスタイルで使用。弱った小魚を演出するときは動きを止めた時に水平姿勢がキモになることも多いので、マスバリを下向きで通し刺しに。カバーが絡むのであればオフセットフックを使用するなど、そのときどきで使い分けることでさらなる釣果アップにつながると思います。ちなみに、水平姿勢で漂うサスペンド状態を維持できるよう、ボディの上下部分が平らなデザインになっているのは開発秘話のひとつです。

この一戦では3日間で10,471gをウエイン。8位に入ることができました。



伝家の宝刀ロングシェイクでカバーを使ってバスをキャッチ

迎えた第3戦は七色ダム。以前、仕事の関係で少し釣りをしたとき、ゴミ溜まりをロングシェイクで攻めていいサイズのバスを獲ったことがあります。ゴミの上でシェイクし、さらに水中に入れてからもシェイク。これには七色ダムがホームの山岡さんも、並木さんもびっくりしていました。

七色ダムはご存知のとおり透明度が非常に高く、クリアな湖です。しかし自分のサイトフィッシングの技量では勝負にならないと踏んで、カバーを絡めて食わせていくという戦略を選択。いや、その選択肢しかなかったというのが本音です。

そこでドライブクローラー4.5インチ(エコ)の「みみずう」をカバーネコリグで使用。ほかには他社製品のエコワームを改造したものも使い、浮きゴミに入れてロングシェイクで釣っていききました。これがうまく作用し、毎日1匹ずつのキッカーをカバーでキャッチ



エコドライブクローラー4.5インチ(カバーネコリグ)

緊急
特別
企画

遅れてきたルーキーが振り返る、2017シーズンのトナメントはジュニア時代から参戦していた小林明人。途中、若気の至りがあつたものの、再び参戦してからは釣りに人生を捧げたといっても過言ではないほどの情熱を注いでいる。そして2017年、念願のトップカテゴリー参戦。一年目にして年間5位に輝くと同時に、JBクライマックスエリート5へも出場。その軌跡を追う。

小林明人の躍進

できました。

ここでのキモは「みみずう」。他の色に比べてブルーギルがちょっかいを出してくる頻度が高く、これがバスを刺激したようです。いわゆる「おつかい釣法」というやつですね。

この試合でも決勝に進むことができ、7,530g・18位でフィニッシュしました。

ドライブビーバー、登場! 正解は試合後に判明した…

JB TOP50シリーズもいよいよ終盤。第4戦は福島県松原湖で開催されました。

プリブラクティスから直前の公式ブラクティスまで、ほぼ毎日ローライトコンディションだったので、バスの反応を多く得ることができていました。

使っていたのはドライブビーバー3.5インチ(エコ)。完全にドハマリといえる状況で、釣ればほぼ700gオーバー。14gのフリーリグにセットし、ラインはフロロの10ポンド。フラットからバンクまで、驚愕の釣れっぷりを見せてくれていました。



エコドライブビーバー3.5インチ(14gフリーリグ)

バイトのほとんどはシンカーが先に着底し、ノーシンカー状態になったときに頻発。シェイクするなどの小細工を入れることなく釣れるため、スモールマウス特有の連発を休ませずにできることも心強いアドバンテージでした。

が…大会3日間は晴天のハイライトとなり、初日のローライトのタイミングで900gを立て続けに3匹キャッチすることができたものの後が続かず沈黙。トータル8711g、30位で終了しました。

あまりにも悔しくて試合後に反省釣行をしたのですが、フリーリグのウエイトを10gに落としてボトムバンプさせると連発! 試合中に試さなかったことが悔やまれた一戦でした…

ホームレイクで迎えた最終戦 1日勝負は9位フィニッシュ!!

暫定11位で迎えた最終戦は、行き慣れた霞ヶ浦水系で行われました。

しかし台風の影響を受けて湖は大荒れ。かろうじて2日目は開催



AKIHIITO KOBAYASHI

できたものの、初日と最終日はキャンセル。TOP50シリーズ初の単日勝負となりました。

ブラクティスから反応がよかったのはエコハイビッチャー3/8オンスDW。特にC.B.パールシャッドで好反応を得ることができていました。とはいえ、単純に投げて巻くだけではなく、バスがシラウオやワカサギを捕食しているであろうエリアが条件で、かついいスポットには何度も通すことがキモでした。3キャスト通しても反応せず、4キャスト目で1,800gが釣れたこともありましたから。

思うに、ホワイトのカラーブレードにバスはリアクションバイトしていたのでしょうか。いやむしろ、その状況が手に取るように見えていました。



エコハイビッチャー3/8オンスDW

そして迎えた試合本番。早い段階で狙い通りにキロフィッシュをキャッチ。その後は水温低下などの影響もあって沈黙したので、シャローのアシのポケットに狙いをシフト。ドライブビーバー3.5インチ(エコ)の4gテキサスリグ、カラーはエビミソブラックが救世主となり、2匹追加することができてタイムアップ。2492gで9位、年間順位を5位までジャンプアップさせることができました。



エコドライブビーバー3.5インチ(4gテキサス)

ドライブビーバー3.5インチは自分も開発に携わらせていただきました。やはり目が行くのはバサロアクションですが、実はテキサスリグで使用したとき、いかに着水音を抑えられるか、というところまで煮詰められているのはあまり知られていない事実ではないでしょうか。ボディ単体で約8gありますので、軽いテキサスリグでも十分にアシの奥の奥までアプローチすることができます。もちろん、着水音を抑えて。

さらに扁平ボディとパドルの重量感によってスライドフォールもお手のもの。そのとき、自分はややエビ反り気味にフックをセットしています。扁平ボディに設けられた深めの5本のリップと、フックポイントのくぼみによって、より容易にエビ反り気味のフックセットができるようになっています。これもこだわりのひとつなのです。

ここまでの一年を振り返ってみました。O.S.Pにはあらゆる状況に対応できる豊富なカラーラインナップかつ、多彩なルアーが揃っています。来年以降も、さらに強烈なポテンシャルを秘めたルアーの発売を控えています。これらを武器に、自分もチャレンジを続けるつもりです。

これからのO.S.Pに、より一層のご期待を寄せていただければと思います。



写真提供=Basser編集部

Field Guide

今回はいつもと少し趣向を変えて、霞ヶ浦水系に精通するプロスタッフが、12月に実績が高いおっぱりオススメスポットをご紹介します。日に日に寒さがきつくなり、釣果のほうも厳しいシーズンが到来。しかしこのオススメスポットを参考にすれば、バスは確実に釣れる! かもしれない……



MAP



マシューのオススメスポット

鱧川橋脚下

すべての好条件が揃う一級スポット

ブレイクラインが岸に寄っているのが最大の特徴で、浅いところで水深1mぐらいますが、沖に進むにしたがって5mぐらまで掘られています。またブレイクに消波ブロックが入っているのも特徴のひとつ。つまり水温の変化が少ない水深と、流れを受けにくい消波ブロックがバスにとって冬の格好のスポットとなるのです。橋脚のまわりも他の場所より深くなっているところがあるので、水温が安定していると考えられます。また北風が多いこの時期、ここは風裏となるので、冬の場所としては完璧なほど条件が揃っているのではないのでしょうか。HPシャッドテール2.5インチのダウンショットやハイカットDRなどでじっくり誘ってみてください。どちらも消波ブロックを感じながら攻めることが重要です。

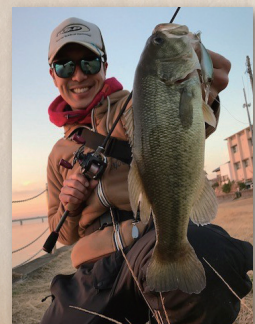


大塚高志のオススメスポット

北利根川・牛堀エリア

水温の変動でバスが上下動できる

足場がよくエントリーもしやすいため、非常に人気のエリアです。ここは沖にブレイクを備えているため、水温の変動によってバスがポジションを変えやすいことがオススメする理由ですね。底質はハードボトムになっているのでバスの越冬エリアにもなっています。ここでのルアーはハイカットDR F。ハードボトムに当てることを意識しながら、ストップ&ゴーで使ってみるといいでしょう。これで反応が得られなければ、速巻きも試してみてください。食い渋るバスをリアクションバイトに持ち込むことができるかもしれません。もうひとつのオススメはオーバーライド。ウエイトは3/16オンスもしくは3/8オンスが使いやすいでしょう。こちらは王道のリフト&フォールで誘って



みてください。



MAP



北田朋也のオススメスポット

常陸利根川・高浜エリア

流れを嫌うバスが溜まる消波ブロック帯

高浜児童公園前の水門より下流のエリアは、バンク沿いに水没した消波ブロックが連なっています。ここは流れを嫌うバスが身を隠すため、寒くなるこれからの時期にオススメです。細心の注意を払いたいのはライン。消波ブロック帯ゆえ、できればスピニングの細いラインより、ベイトフィネスタックル以上で挑むといでしょう。使用するのはハイカットDR。消波ブロックを縫うように引いてくることで、ベイトフィッシュの回遊を待っているフィーディングのバスの本能を刺激。ストップ&ゴーでの実績が高いですね。またオーバーライドで消波ブロックの穴をひとつひとつ、丁寧に探ってみるもあり。こちらはリアクションバイトを誘発する釣りになります。小刻みなリフト&フォールをお試しください。



MAP

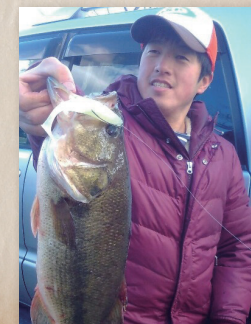


中林正臣のオススメスポット

霞ヶ浦東岸・田上造船所前の水門

複合要素が冬バスのハートを掴む!

1m以上の水深、硬いストラクチャー、そして沈みモノを擁する、いわば冬バスのハートをがっちり掴む要素がたくさんある水門です。水門を挟むように両側には鉄板が入っており、沈みモノは太陽の角度によっては水中にシェードを作ります。これらすべてが備わった、いわば一級スポットではないのでしょうか。まずはダウンショットで水中の沈みものをチェック。いろんな角度で通してみ、反応がなければドライブシャッド4.5インチのノーシンカーリグにチェンジ。沈みモノの際や真上にキャストし、艶めかしいフォールで誘ったあと、着底後は放置します。長いときは3分くらい、置いておくこともあります。このとき、ラインの動きに注目。違和感があれば、それはアタリだと思っていでしょう。



MAP



4人がオススメする

12月のカスミでハズせないルアー



▶ マシュー
HPシャッドテール2.5インチ



▶ 大塚高志
オーバーライド



▶ 北田朋也
ハイカットDR



▶ 中林正臣
ドライブシャッド4.5インチ



寒さに負けず、Let's Bassing!!